

i 防災気象情報

特別警報について

警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれ
が著しく高まっている場合、気象庁は「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。

◆特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、 数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

◆地震警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

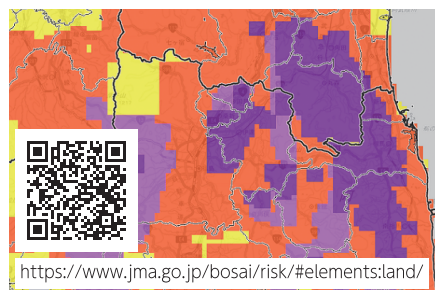
特別警報が発表されたら

- ⚠ 尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ⚠ 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ⚠ ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

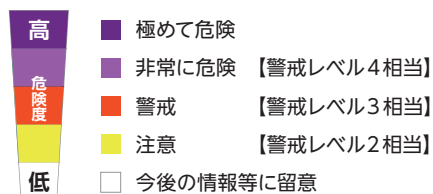
キキクル(危険度分布)について

どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを
知ることができる、命を守るための情報です。

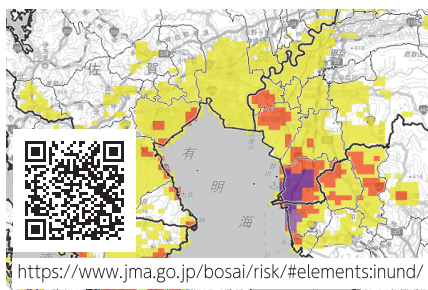
土砂キキクル 大雨警報(土砂災害)の危険度分布



紫：崖・溪流の近くは危険



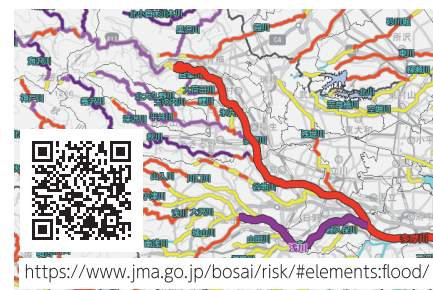
浸水キキクル 大雨警報(浸水害)の危険度分布



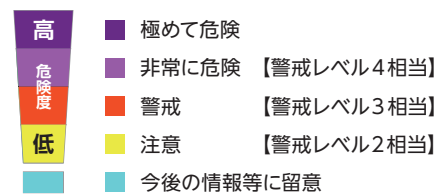
紫：低地は危険



洪水キキクル 洪水警報の危険度分布



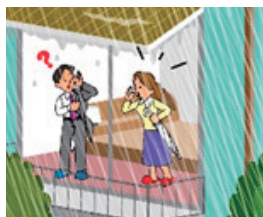
紫：河川沿いは危険



※使用している携帯電話・アプリケーションによっては二次元バーコードの読み取りができない場合があります。
(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)

雨の強さと降り方

やや強い雨



10～20mm未満

ザーザーと降る。
雨の音で話し声がよく聞き取れない。

強い雨



20～30mm未満

どしゃ降りの雨。
ワイパーを速くしても見づらい。

激しい雨



30～50mm未満

バケツをひっくり返したように降る。
道路が川のようになる。

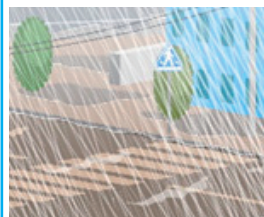
非常に激しい雨



50～80mm未満

滝のように降る。
ゴーゴーと降り続く。
傘が全く役に立たなくなる。

猛烈な雨



80mm以上

息苦しくなるような圧迫感がある。
恐怖を感じる。

風の強さと吹き方

人への影響

15～20m/s

風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。
高所での作業はきわめて危険。



20～25m/s

何かにつかまっていけないと立っていられない。
飛来物によって負傷するおそれがある。



25m/s 以上

屋外での行動はきわめて危険。



屋外・樹木の様子

15～20m/s

電線が鳴り始める。
看板やトタン板が外れ始める。



20～35m/s

細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。
看板が落下・飛散する。



35m/s 以上

多くの樹木が倒れる。
電柱や街灯で倒れるものがある。
ブロック壁で倒壊するものがある。

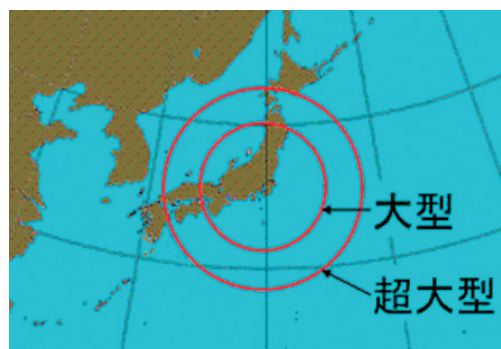


台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備える必要があります。

大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型（大きい）	500km以上～800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上



強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s（64ノット）以上～44m/s（85ノット）未満
非常に強い	44m/s（85ノット）以上～54m/s（105ノット）未満
猛烈な	54m/s（105ノット）以上

